

テレビでは伝えられない真実を！

被災地の水産加工業 経営者たちの戦いの記録

行政はどのような救済をしたのか？
民間ではどのような事が起きたのか？



福寿水産は、気仙沼の最も被災の激しいシシオリ地区にある。目の前の県道には大型漁船が打ち上げられ放置。撤去には数カ月かかりその間通電出来なかった。

破壊した下水管をそのままに1メートルの嵩上げをして瓦礫撤去の道路ができた。

このため福寿水産は下水管が使えなくなり、工場が完成しても水が流せず自社で浄化槽を設けることになった。最終的に道路の嵩上げは1.8mと決まったが、実行された場合には、新工場は移転せざるを得ない・・・

「地域と共に復興を遂げる」を第一に、我慢強く復興に取り組む。

シシオリ地区には、自力で再建出来ない水産加工業社が3社ある。

この3社を救済するために、地区の加工業社18社が組合を作り、地元行政へ陳情するなど、3社をバックアップすることを決めた。



「気仙沼シシオリ加工協同組合」一回目の会合

地元建設企業に拘り発注！

福寿水産は、工場再建を地元の建設会社に発注した。建築作業員が現場を掛け持ちしていて、完成は当初の予定よりも6ヵ月も遅れた。何度も長期に渡り工事が中断したが、白井社長は他県の建設会社ではなく、地元の建設業にカネが落ちるよう、我慢し続けた・・・。



「福寿水産」工場完成